

滝観洞観光センター受付施設



山々の豊かな緑に包まれる施設。山と川が出会う細長い隙間のような場所に、人びとが集い、くつろぐことのできる安全な居場所が生み出された。



曲面屋根は、高低差のある空間性を2階に与え、誰もが洞内を追体験できる空間を生み出した。



2F食堂の連続窓。豊かな自然に包まれて、家族の戻りを待つことができる場所。



蕎麦テラス。移り変わる豊かな自然を愛でつつ、名物「滝流し蕎麦」を楽しめる屋外の軒下空間。



豊かな自然風景の中に溶け込み、自らもまたその風景の一部となる、新たな建築の立ち姿。

洞内に落差29mの滝を有する観光名所における、入洞受付施設の建て替え計画。山と川が出会う細長い隙間のような場所に敷地を定め、人々が集い、くつろぐことのできる居場所を生み出した。緑豊かな周辺環境を接続する役割を担う、「建築」でもあり「土木」でもあるような、細長くユニークな施設である。用途としては「飲食店舗+物販店舗」であるが、その機能を超えて、人々が自然とともにこの場に居ることの魅力を最大限に引き出すことを意図した。川の対岸を並走するJR釜石線との「見る・見られる」関係性を強く意識した建築計画であるが、山側にも豊かな自然を愛でつつ名物「滝流し蕎麦」を楽しめる屋外の居場所が用意されている。曲面屋根は、冬季の積雪を受け止めつつ、景観に馴染み、屋根下に誰もが洞内を追体験できる空間を生み出している。「だんだんテラス」は周囲の風景同士を接続する視点場で、人々の活動が緑豊かな山々の風景と連続し、住田町らしい自然と共存した憩いの場となる。

建築を強く規定したのは、背後に控える高低差17m強の崖である。傾斜角の大きな斜面で、軟岩と判断できる背面土であっても敷地が細く長い場合、土圧を受けつつ安全な建物とすべく構造計画を入念に検討した。木造のため建物重量の確保が困難な中、基礎底盤と擁壁としても機能する高基礎をバランス良く配置し、周辺環境が有する景観としての魅力を損ねることなく、計画建物の建設によって崖崩れに対する安全性を向上させた。途中、崖との関係健全化のため、計画建物を前面町道側に越境させる困難も生じたが都市計画区域外であることから町道を廃止し、敷地境界を再設計して乗り越えた。設計および工事の期間を通じて、丁寧に関係各所との協議を重ね、健全な建築計画を実現することに理解と叡智を結集できた事は、末永く後世に誇れるものと考えている。

建設困難な環境にあって、150m超という小さな施設でありながら、建築によって人の流れと自然の循環を整え、広く永く人々に愛される環境を生み出すことを目指したプロジェクトである。

[建物名称] 滝観洞観光センター受付施設
 [発注者] 住田町
 [用途] 観光受付施設(物販店舗・飲食店舗)
 [所在地] 岩手県気仙郡住田町上有住土倉298-81
 [設計監理] 建築：アトリエハレトケ(長崎辰哉)
 ・武山大樹建築設計事務所(武山大樹)
 構造：長谷川大輔構造計画(長谷川大輔)
 設備：三浦建築設備設計(三浦亮)

[施工] 住田住宅産業(中野和人・荻原一郎)
 [規模] 構造：木造(在来軸組構法)
 階数：地上2階
 敷地面積：286.67㎡
 建築面積：104.00㎡
 延床面積：155.02㎡
 [設計期間] 2021年11月～2023年3月
 [工事期間] 2023年6月～2024年3月



JR釜石線へと複数の居場所を貫いて視線が抜けて行く。